

子どもが自立して社会に巣立つまで、 部局や学校種を超えて 子どもや保護者を支援していく

群馬県 草津町教育委員会 教育長 中澤 隆

入職してから温泉課や総務課など様々な行政職を経験し、町を支えているのは「人」なのだとつくづく感じています。今、その人づくりに直接かかわる教育職に携わる中で、子どもが自立してしっかり生活できるようになるための支援が最も重要だと考え、施策を進めています。

中でも力を入れているのが、2012年度に始めた「育ちと学びを支えるネットワーク事業」です。保健部局が健診などで把握した子ども個々の情報を教育部局が受け継ぎ、課題には医師、臨床心理士、助産師、保健師らの専門家チームで対応します。乳幼児期から継続して見ているからこそ、適切な支援を判断できますし、保護者も専門家の助言に納得し、安心して子育てを行えます。これまで情報を蓄積してきた小学5年生までの間に、不登校の児童はいません。

保護者が1人で問題を抱えこまないよう、相談窓口を1本化したことで、すぐ相談してもらえるようになり、問題が深刻化する前に対応できるようになりました。さらに、2年前からは、高校生への就学費補助を始めたことで、生徒が高校を中退した時にも、町としてすぐに必要な支援ができるようになりました。小さな自治体だからこそ、すべての子どもの状況を把握して学校間を橋渡しし、社会に巣立つまで支援を継続していきたいという思いがあります。

温泉観光地という地域性を生かした教育も、重視しています。草津町ではここ数年で外国人観光客が増え、それに対応した雇用が増えてきています。温泉街は通学路になっており、子どもたちは、日本人だけでなく外国人観光客にも話しかけられることがあります。そうした環境を踏まえ、英語で町を紹介できる力の育成を図っています。ALTを、小・中学校だけでなく幼稚園にも配置するとともに、中学校の英語科教員が小学校の英語指導にも入れるようにしました。ここでも、幼稚園から中学校までの継続した支援を大切にしています。

子どもが楽しく学校へ行き、落ち着いて勉強に取り組む。それだけで、保護者の心配事が減り、教員も安心して指導ができ、それが子どもの力をさらに伸ばすことにつながっていきます。行政が部局を超えて連携し、子どもの自立への道と、それを支える人々を、あらゆる側面から支援していきたいと考えています。



なかざわ・たかし◎群馬県立中之条高校卒業後、草津町役場に入職。温泉課長、総務課長などを経て、2011年度から現職。

「育ちと学びを支えるネットワーク事業」の中心となるのが、就学前に行う5歳児運動健診だ。子ども一人ひとりの発達特性を把握して学校教育へ橋渡しするとともに、保護者を支援するための講演会や育児相談も充実させている。



群馬県立女子大学と連携し、小学5・6年生の外国語活動の副教材として「KUSATSU NOTE」を作成。草津町の名所や祭り、名物などを英語で学べる内容となっている。